



隣近所と仲良くして 皆が安心できる地域に

生まれは千住。昭和44年、小学校入学のタイミングで伊興エリアへ。越してきて5年後に「東伊興町会」が設立。初代の副会長は海老沼会長の父親だった。また、母親は小中学校のPTA役員。地域を盛り上げていた両親の影響もあり、結婚後、自身も町会の役員になり、同じ頃、東伊興小学校おやじの会のメンバーに。すぐに東伊興小学校のPTA副会長、会長と歴任し、伊興エリアのPTA会長の代表になり、その後、都と区のPTAの連合会でもそれぞれ副会長を務めた。町会長になったのもPTA会長のご縁がきっかけ。東伊興小学校の歴代PTA会長の会議で、吉川伊興東町会長や元井狭間町会長と出会い、近隣町会同士の連携の重要性を考えるようになった。やがて、町会内からの推薦もあり、平成30年56歳で会長になる。もうすぐ7年目だ。

辛い時期に支えてくれた 皆さんへの恩返しとして

大手文具メーカーの販売員として百貨店に勤めていた頃に知り合ったご主人と結婚後は、妻として、3人の母親として、家族を最優先にした。その頃住んでいた区外の小学校でPTA役員を11年務めたのも子どものためだと思ったからだ。ご主人の事業が傾いた際も全力で支えた。子どもたちが独立したことを機に、平成26年に現在の区営アパートへ。翌年の1月、ご主人が体調を崩す。大病を患ったのだ。ちょうどその年の4月から持ち回りを務める自治会役員の順番。治療のため入院が続くご主人のサポートをしながらも、役員の仕事を怠らなかつた。そして8月、ご主人は亡くなってしまった。本人の希望で自宅療養にした翌日のことだった。自宅で過ごせたのは一晩。昼間ずっと、窓の外の景色を嬉しそうに眺めていた姿が忘れられないという。



昭和37年生まれ、61歳。仕事は設備工事業の経営者。父親が創業した企業を継いだ。朝5時30分には出社して仕事の準備をするのが日課。自宅、事務所、倉庫や車、車庫のシャッターの鍵など常時持ち歩いている鍵の数はなんと50個以上！「働かざる者食うべからず」の精神で町会に家庭に仕事に邁進中である。

会長になってすぐに取り組んだのが防犯対策。町会エリア内を役員と歩きながら確認し、地域に必要な対策について話し合った。取り組みが認められ、国道4号線の西側で初の「防犯まちづくり推進地区」に認定。防犯カメラの設置を進めた。設置は区の助成金を活用すれば町会の負担が少ないことを情報共有し、防犯を重要視した3町会でのカメラの設置につながった。いずれも「防犯まちづくり推進地区」だ。「隣近所と仲良くすれば、皆が安心して暮らせる地域になるよね」。

当時、月に1回の役員会議があった。ご主人を亡くしたばかりの池田会長を心配し、皆さんが声をかけてくれたり外出に誘ってくれ、ふさぎ込まずに済んだ。会長になって5年目。役員が持ち回りのアパートではあまり例が無い長さだ。「会長には話しやすい」と入居者から多くの相談が寄せられる。「ずっと会長でいて欲しい」という声を受けて続けてきた。「恩返しです。私もこの皆さんに助けてもらったので、お互いに協力し合うのが当たり前だと思っています」。

会長に訊け!



昭和22年生まれ、77歳。伊興住区センターの講座で続けているカラオケ、お茶、俳句が趣味。最近のお気に入り、友人に誘われた歌舞伎映画。好きな言葉は「明日は明日の風が吹く」。嫌なことがあっても翌日に持ち越さない。映画「風と共に去りぬ」のヒロインのように、凛とした姿勢を心がけている。

伊興町自連 副会長、伊興四丁目住宅自治会長
池田 良江 Ikeda Yoshie

伊興町自連 監査、東伊興町会長
海老沼 新雄 Ebinuma Aro

町会・自治会に加入する 3ステップ

※ 自分のエリアの町会・自治会員をご存知の方は直接お申込みください。
(都営・区営住宅は入居時にご案内します)

1 加入方法がわからない方は
下記の方法でお申込み

● ネットで 足立区公式サイトへ



上記QRコードを読みとってください

ページ内の
足立区オンライン
申請システム
に入力

● 郵送・ファクスで 住所、氏名、電話番号を明記し送付

郵送 〒120-8510 足立区中央本町1-17-1
地域調整課地域調整係宛て
ファクス 03-3880-5603
問合せ 足立区地域調整課 TEL 03-3880-5864

2 該当の町会・自治会から
連絡が来ます

3 加入!



ようこそ!

地域の団結で
安心を!